

れいわ ねんど
令和5年度

がっこうじゅんかいこうえんじぎょう 学校巡回公演事業

まんさく かい
〈万作の会〉
のうがくこうえん
〈能楽公演〉



きょうげん かまう
狂言「蝸牛」



たろうかじや
太郎冠者

がっこうじゅんかいこうえんじぎょう 「学校巡回公演事業」

しょうがっこう ちゅうがっこうとう ぶん かげいじつだんたい じつえんげいじつ じゅんかいこうえん ねん ことち じつ たか ぶん かげいじつ かんりょう
小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・
たいけん 機会を確保するとともに、ことち ゆた 創造力・想像力や、しこうりょく、コミュニケーション能力などを養
い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。ワークショップでは、
ことち じつえんし どうまた かんりょうし どう ねん ことち ぶんか さんか ぐふう ねん
子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）
独立行政法人 日本芸術文化振興会

じょうえんないよう
上演内容

【解説】「狂言を楽しもう」(約20分)

【鑑賞】狂言「盆山」(約15分)

【鑑賞】狂言「附子」(約20分)

【共演】狂言「蝸牛」(約20分) —大きな声で囃子言葉を唱えて一緒に浮かれよう！

鑑賞の手引き — 「狂言を楽しもう」

狂言は、650年ほど前、室町時代に能とともに成立した、日本特有の伝統芸能です。能と狂言を合わせて「能楽」といいますが、能が伝説や歴史物語を題材に、登場人物の心情を謡(歌)と舞で表現する幻想的な劇であるのに対し、狂言はセリフとしぐさで写實的に話が進む、喜劇的な対話劇です。題材も私たちの身の回りで実際に起こるような小さな事件であることが多く、能と違って歴史上の人物はほとんど登場しません。

おろかな大名、たくましい家来、口うるさい妻、こけおどしの山伏、気弱な鬼、はては猿、狐、狸、茸や蚊の精までが登場し、日常生活の中で誰もが感じたことがありそうな心の動きを、洗練された笑いに表現しています。この狂言の笑いこそ真に人間らしい感情の表出であり、人間への賛歌であると言えるでしょう。

また、狂言は非常に優れた演技技術を「型」として持っています。声を使うにも、しゃべる・語る・謡うという技があります。身体技術でもアクロバティックな技もあれば、様式的な舞もあり、またパントマイムのような写實的な所作もあります。

狂言は「素手の芸」と言われます。道具をほとんど使わず、声と身体だけで空間や時間を埋め、ないものがあるように見せるのです。想像力を働かせて自由にご覧下さい。



能舞台での上演のようす

きょうげん ほんさん
狂言「盆山」 …登場人物：2人（男，何某）

ある男が、流行りの盆山（お盆の上に風景を作った置物）を盗もうと知りあい（何某）の家に忍び込むが、すぐに見つかってしまい物陰に隠れる。家主は隠れている男に、あれは盗人ではない、犬だ、猿だと言ってからかう。男は必死に動物の物真似をしてごまかそうとするが、最後に難問を出され…。

動物の物真似や、パントマイム的な動き、見立てなど、狂言の特徴的な「型」がたくさん登場する演目です。想像力を膨らませてご覧ください。

ことば せつめい
言葉の説明

ほんさん[盆山]…箱庭のように、盆や浅い鉢の上に石や砂で山の形などを作ったもの。

あんない[案内]…あいさつすること。

しわいひと[吝い人]…けちな人。

よしがき[葭垣]…葦を結んで作った垣。

つぼ[坪]…中庭。

ひとおと[人音]…人のいる音、気配。

なむさんぼう[南無三宝]…驚いたり、失敗にきづいた時に発する語。大変だ。

なぶる[騙る]…からかう。

みぜせり[身ぜせり]…身体を細かく動かすこと。

きょうげん ぶす
狂言「附子」 …登場人物：3人（太郎冠者，主，次郎冠者）

太郎冠者と次郎冠者は主人（主）から留守番を言いつけられる。二人は主人から、猛毒の附子が入っているので決して近づくな、といわれた桶の中身が気になって仕方がなく、何とか桶の中を見ようと知恵を絞る。ようやく中を見ることに成功すると、今度はそれを食べてみたいと太郎冠者が言い出して…。

とんち話でも有名な、狂言の代表的な演目です。太郎冠者と次郎冠者の活躍とともに、「型」を使って豊かに表現される登場人物たちの喜怒哀楽にご注目下さい。

ことば せつめい
言葉の説明

ぶす[附子]…トリカブトという草の根を乾かして作った毒薬。

めつきやく[滅却]…死ぬこと。

じゅもん[誦文]…まじない。

きのどく[気の毒]…心配事。

どうしんでない[同心でない]…賛成しない。

わざをするものはかならずだまる [業をする物は必ず黙る] …ことわざ。業をするような者は決して騒ぎ立てたりせず、黙ってしずかに物事をするという意味。

りょうぜられる…魅了される。とりこにされる。

さとう[砂糖]…当時は黒砂糖。水あめの状態で保存されており、貴重品であった。

よいことめされた…実は良くないことを、わざと反対に言うことば。

きこえぬ[聞こえぬ]…道理のない。わからない。

ざれごと[戯れ事]…冗談。

もっけいおしょう[牧谿和尚]…中国の絵描きの僧。その絵は日本でも好まれた。

ひそう[秘蔵]…大切にしまっている物。

だいてんもく[台天目]…台にのせた大きな天目茶碗。

てどり[手取]…相撲が上手な人。

なんぼう…どれだけ。いかほど。

かしらかたの[頭固の]…丈夫な。頑丈な。

がっきめ…こいつめ。

おうちゃくもの[横着者]…ずるい奴。

きょうげん かぎゅう きょうえんたいけん
狂言「蝸牛」 ー 共演体験 ー

主人の祖父のため、長寿の薬になるというかたつむり(蝸牛)を取りに藪へやってきた太郎冠者に、かたつむりと間違われた山伏(山で修行して超能力を身につけた僧)が、かたつむりのふりをして、太郎冠者と一緒に囃子言葉で浮かれる場面を演じます。

★児童・生徒の皆さんは、太郎冠者になって、大きな声で山伏を囃してください。

★山伏の「でんでんむし」という言葉の言い方によって、「雨も風も…」という囃子言葉の前に「はあ」という合いの手が入る場合があります。

山伏の言葉をよく聞いて反応しましょう。



山伏
 のむらまんさい
 (野村萬齋)

山伏：さあさあ、囃せ囃せ

太郎冠者：心得ました。雨も風も吹かぬに でざかまうちわろ でざかまうちわろ

山伏：でんでんむしむし。でんでんむしむし。でんでんむしむし。でんでんむしむし

太郎冠者：雨も風も吹かぬに でざかまうちわろ でざかまうちわろ

山伏：でんでんむしむし。でんでんむしむし。でんでんむしむし。でんでんむしむし
 (後、演技が終わるまでくりかえし)

※でざかまうちわろ…「でざ」は「出ずば」の縮まったもの。「かま」は「殻」のこと。
 「出てこないなら、殻を打ち割るぞ」という意味。

だんたいしょうかい まんさく かい
団体紹介 ー「万作の会」

「万作の会」は、人間国宝・野村万作を中心に公演を行う狂言師のグループです。万作をはじめ、野村萬齋・石田幸雄ほか「万作の会」の狂言師たちは、国内外で多くの狂言・能公演に出演しています。また、学校や劇場などで観客に狂言を体感してもらうワークショップを行ったり、大学やカルチャースクール、専門学校などで講師として指導を行うなどし、狂言の普及活動に努めています。また、狂言の優れた表現技法を生かした新しい試みにもしばしば取り組み、その演技・演出でも高い評価を受けています。



万作の会ホームページ <http://www.mansaku.co.jp>



狂言「栗焼」より
 太郎冠者(野村万作)

★万作の会のYouTubeチャンネル「野村萬齋@狂言ござる乃座」では、野村萬齋をはじめとする万作の会の狂言師が、狂言の「型」をレクチャーする動画を配信しています。ぜひご覧下さい。



時間帯
 距離
 換気に気をつけて、
 みなさんのチャレンジ
 Twitterで、シェア
 してませんか？